

自然消滅セリ

一 大正七年五月十八日 佐友 鑄鋼所ノ職工ノ一部三十名カ  
同盟罷業ヲ遂行シタル際ノ罷業職工側ヲ代表シ工  
場主ニ對シ職工ノ為メ有利ナル調停停ヲ為サト交渉  
シタルモ之ヲ肯ケラレテ目的ヲ達セス罷業職工其他ノ  
信望ヲ失シタルユトアリ

一 大正八年六月 大阪市北区天満橋筋西二丁目 大阪  
電氣分銅株式會社職工三百八十九名中 友愛會會員ハ  
約二百名アリ 該會會員數名主唱トナリ 全月二十三  
日 伸延部地金部ノ全職工連署シテ日給三割値上  
要求書ヲ提出セリ 然ルニ會社側ハ事業不振ノ故ヲ  
以テ断然此ノ要求ヲ拒絶セリ 茲ニ於テ友愛會

大阪支部長代理幹事 奥田熊次郎 大阪聯合會主  
務加藤滋 友愛會顧問 西宮張所主任 久留弘三 等  
交々會社ニ交渉協調ヲ試ミントシテ 幹事ニ所下リ  
シカ終ニナラス 地金部職工五十余名ハ 全月二十五ヨリ伸  
延職工三百三十余名ハ 全二十六ヨリ 孰モ同盟罷業ヲ  
決行セリ 爾後極力職工ノ改革固ナル結果ヲ計リ時々  
公開演説ヲ開催シ 共海ノ喚起ヲ為ス等 百方盡  
力ヲスリ 處アリモ 會社側ハ依然強硬ナル態度ヲ持シテ  
断乎トシテ 罷業職工ヲ解雇シ 更ニ職工ヲ募集シ 彼等  
ニ相関セサルカ如キ 態度ヲ執リタルヨリ 到底目的ノ徹貫  
ヲ期シ難キヲ自覚シ 友愛會幹部等ハ 六月三十日 其  
閣僚ヲ離脱シ 同時三職工側ハ 自由行動ヲ執ルユトナリ 七月一日ヨリ  
復職解決ヲ望ムシカニナリ 又 全會員大部ノ 離職ヲ見タリ